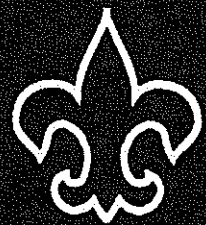


REINANZAKA SCOUT CLUB



スカウトOB・OGの情報交換や交流の場 / 2001年6月1日発行

霊南坂スカウトクラブ

霊南坂スカウトクラブ：霊南坂教会内 107-0052 東京都港区赤坂1-14-3 電話：03-3583-0403

霊南坂スカウトクラブ総会の開催

去る2月18日(日)例年どおりスカウトサンデー礼拝も行われ、その後霊南坂教会1階ホールにおいて、霊南坂スカウトクラブの総会が開かれました。

また、当日こども達へ成城大学のレストロアルモニコ管弦楽団を子供達への音楽のプレゼントとして用意しました。カブ・スカウトのこども達が寄せてくれた印象については次ページに掲載しましたので、ご覧ください。

総会では、昨年度における活動報告と会計報告とが行われ、また今後スカウトクラブの活動をどのように展開していくかの討議が行われました。

スカウトクラブの2000年度は、会報の発行を中心としたものでしたが、本年度は、より多くの人達との親睦を深めるようなイベントを可能な限り企画することを要望する意見があったため、本年度は夏期か秋期にイベントを開催するように計画することとしました。

昨年度の主な活動は、スカウトクラブ5周年を記念してステッカーを作成して配付したほか、現役リーダーを慰労するのが主な目的のクリスマス・忘年会の開催、会報の発行



成城大学レストロアルモニコ管弦楽団

今回、同管弦楽団の皆さんに演奏していただくのは6月2日(土)

に成城大学50周年記念講堂での演奏会に演奏されるものとのこと。

(年3回)と、ガールスカウトへの支援金となっています。

会計報告の詳細は以下の通り。期間は2000年2月20日から2001年2月18日まで。

◎収入の部

前年度繰越金	845,406
会費	399,000
入会金	10,000
賛助会費	66,000
教会バザー収益	28,250
ステッカー販売	17,100
雑収入	1,530
利息	458

収入合計 1,367,744

◎支出の部

教会感謝献金	4,300
記念ステッカー等	99,000
現役慰安(忘年会)	47,471
管弦楽団謝礼等	35,000
支援(GSへ)	50,000
通信費	132,730
事務費等	16,167
会議費	5,900
支出合計	391,168

◎繰越金(2001年度への)

976,576

◎スカウトクラブ基金

2,209,719

(次ページにつづく)

(前ページよりのつづき)

スカウトサンデーの音楽会ではまず子供達に楽器の説明をしていただきました。打楽器、管楽器、弦楽器など、それぞれの特徴や奏法音色など実際に鳴らすとか演奏するとかで子供達も十分に理解ができたように思われます。

今回の音楽会のプログラムとしては「G線上のアリア」「そりすべり」「ジャズ・メドレー」「お楽しみ」というものでした。

毎年スカウトサンデーに行われているこのような音楽会あるいは講演会などはスカウトクラブからスカウト達へのプレゼントとして行われているものですが、同時に霊南坂教会の会員の方へもオープンなものとなっています。

音楽会の感想

カブ隊 くまスカウト
渡辺 優

ぼくは、オーケストラの演奏は、テレビでは見たことがあるけれど、目の前で初めてです。いろいろな楽器をみられて良かったです。特に印象に残ったのは、トロンボーンでした。トロンボーンは、何となくおもしろい音なので、すきです。

カブ隊 しかスカウト
江森 芳樹

ぼくは、スカウトサンデーの時、成城大学のお兄さんやお姉さん達がしてくれた吹奏楽をききました。演奏を始める前に、楽器の名前や、それぞれの楽器がどんな音を出すのか説明してもらいました。打楽器と弦楽器があることや、楽器によって音が違うことがわかりました。そして、たくさんの楽器の、それぞれの音が集まって大きな演奏になることがわかりました。

演奏は、「G線上のアリア」がとても良かったです。楽しみにしていた「となりのトトロ」がきけなかったのが残念でした。今度、また機会があったら聞かせてください。

「後輩への手紙」の募集

戦後初めて深刻に日本経済が変動を来している関係で、なかなか以前のように時間・金銭的に余裕を持ってない方もいるでしょう。

ただ、小泉内閣が発足し、今まで閉塞状態にあった日本経済も変わろうとしています。今までのような硬直化した経済構造でのビジネス思考も根本的に変えないと今後の日本経済についていけなくなる可能性があります。

それにはただ今までのような頑張りだけでも駄目で、新たに始まる小泉内閣の構造改革がどのような風の吹き回しで順調な自分のビジネスにマイナスの影響を与えるかも判らない時世でもあり、余程注意しないと乗り切っていけないかもしれない時代とも言えます。

スカウト教育も時代に応じて変化していかなければならないはずです。今のスカウト達の挙動をみると、与えられたプログラムをやればそれで終わりといった感じがします。

スカウトという名称は、もともと「斥候」という意味で、世の中の人々の半歩先を歩む(読む)ような「人材」となることが最終的に望まれていると思われま

す。ところが、余りにもプログラムが充実しているというか、硬直化しているというか、スカウト自身で積極的に困難を解決していこうというような「気概」が今のスカウ

ト教育では育っていないように思われます。余りにも与えられるプログラムが多すぎるためではないかと思われま

す。自分達で問題を見出し、解決策を模索・策定し、解決するというようなプログラムがないように思われま

す。多分、終戦直後の霊南坂スカウトの発足当時は与えられることが少なく、むしろ自分たちでほぼ全部を拓いていかなければならなかった人達はある意味で「面白い時代」を生きていたと思われま

す。飽食の時代とも呼ばれる現代、実際には栄養失調が多くなっているとも言われています。スカウト教育も表面的には充実しているようで、中身自体が薄いつか、あるいは実際的な運用に問題があるのかもしれない

です。たまたま自発的にボランティア活動に参加した高校生達と別な団のシニア・スカウト達とを対比する機会があり、スカウト達に自発的に動くことを促すプログラムの必要性が感じられるところ

です。スカウト教育に限らず、このような時期に縦横の繋がりを広める意味でも、会員同志がアイディアあるいは思考を同輩後輩に伝えていくことが必要になると思われま

す。連絡先は、会報の最後のページにありますので、ご連絡ください。

連載 (4)

「古美術商って何?!」

永山 茂樹

さて今まで古美術の事や、古美術商の仕事に付いて色々書いてきましたが、今回は僕が今まで聞いた古美術や美術商に関する面白いエピソードを中心にお話したいと思います。前回もお話ししましたが、我々が扱う物は、どこから出てくるかわかりません。知人の家や、露天、はたまた粗大ごみの中から天下の大名品が出て来る事も

あるのです。

かつて先輩から聞いた話では、粗大ゴミの中からバイオリンの天下の大名品・ストラディバリウスを拾って海外のオークションで高値で売れた話や、露天商の店先で李朝の大名品が3000円で売られていた・・・なんて嘘のような本当の話もあるのです!

私も、この業界に入った時に美術商

の先輩に「死ぬまでにチャンスは3回ある。その少ないチャンスを物に出来るか出来ないかで美術商としての人生が変わってくる」と教えられました。その時は、(そんな事ないだろう...)と思っていましたが、今ではあの時の先輩の言葉が理解出来るようになりました。

私自身は今まで、そんなにオイシイ思いをした事は無いのですが...、業者の先輩や仲間などから、儲かった話などを聞いていると、益々やる気が出てきて勉強します。

しかし、当然の事ですが、損する事も多々あります。「これは売れる!!」と思って気合を入れて買った物が、オークションに出しても買値の十分の一にしかならなかったり、御客様の注文で良いと思って買った物が贋物だったり...そんな時は、自分が情けなくて嫌になる事もあります。しかしそんな時も、もう二度と損しないように勉強する時でもあります。

どんな業種もそうでしょうが、人間死ぬまで勉強ですね...

さて、話題を変えましょう!近頃では、TVでお宝鑑定などと言う番組が幾つか放映されています。私達から見たら???な所も多少あります。しかし、そんな?番組でも功績?があります。

まず1つ目は、皆さんが古い物に興味を持って下さったことです。今まで捨てていた物を見直して、自分の生活の中に取り入れる...これは大変素晴らしい事だと思います。

そして2つ目は、多くの若い人材の業界への参入です。今までは、業者の息子、または美術商の親類などからしか美術業界に入る人はいませんでした。

しかし最近ではこれまで美術業界と縁の無かった若い人が道具屋や画商などに会社員として入る事が多いようです。昔は「丁稚奉公」なんて言われていたんですが...また、最近では露天商としてスタートする人も多岐にわたります。

まあ、その番組の中から我々の先輩も売れっ子タレントとして世に出て

「伊万里について」の続き。

古九谷については、従来から文献の渉猟、窯跡の調査、肥前磁器との比較研究など、色々研究されていますが、未だ明確なことは分からないようです。古九谷といわれる作品は、作行豪快、文様雄渾、色調渋く、独特の魅力があり、柿右衛門、色鍋島などと並んで、我が国色絵磁器の代表的なもの

行き、本来の美術商と言う職業よりも活躍されておられる方もおられるので、あまり酷い事は言えないのですが...

しかし、困ったことも少しあります。番組で、自分が持っている物とたまたま似たものが出たとします。すると翌日、店には「これ、高いらしいですね、買って下さい。」といった具合に品物を売りに来る人が居ます。テレビで「江戸時代の」「桃山時代の」とか言った様な品物が世間にゴロゴロしてると思えますか? 無いとはいませんが...でも、疑問や質問があったらいつでも来て下さい。

それと、これは私の話ですが、知人の家に始めて行った時の事です。床の間には、所狭しと並んだこけし・人形・皿・香炉・卓・茶碗等々よくこれだけ並べたなと思うくらいの量の品物が、一週間後に行った時床の間には何もありませんでした。知人に聞いたら、骨董屋さんが来たからだと言っていたそうです。後で分かったことですが、何と、私の目に付かない隣の部屋にある棚の中の茶碗や皿までしまってしまったらしいです。私達は、泥棒じゃないんだから、物を取ったり、ましてや知人の家の物を売って下さいなんて、よっぽどのことがない限り言いません。この連載の最初に書いたようにやっぱり敬遠されているのでしょうか?皆さんは逆に私達を沢山利用して下さい。その為にこの様な文章を書いているのです。

これを機に興味を持った方々は、手紙やメールを頂ければと思います。それから、家に何か有るけど分からない、友人が困っている等々いつでもご連絡下さい。必ずお役に立つと思います。

皆様が、少しでも美術品や私達美術商について理解や興味を示していただければ、これに勝る喜びはありません。

●ホームページ:

<http://homepage2.nifty.com/onkodou/>

●Eメール・アドレス

onkodou@mbg.nifty.com

なっています。器種には、皿・鉢・徳利・瓶・蓋物・香炉・鏡子などがあり、中でも古九谷の特色をよく発揮しているのは大皿です。

素地はやや灰色がかかった粒子の荒い土に、不透明な鈍い白色釉をかけたもの、或いは、伊万里に似た滑らかなものなどがあり、初期の伊万里だとか、色々推測されています。古九谷の本領は、なんとといっても大胆な構

図、雄大な筆致、重厚な釉調の上絵付にあります。それには、五彩・三彩の上絵だけのものと、染付のあるもの、また青手と呼ぶ緑一色か、緑を主に黄・紫などを加えて器の内外面を塗りつぶし、釉下に黒で絵を描いたものなどがあります。彩釉は総じて濃く落ち着いた色で、殊に赤は、柿右衛門・伊万里・鍋島と違って沈んだ暗い色調であり、緑は澄んだ色だが濃く、紫は他の窯に比べて薄く透明であり、黄は鮮やかではなく、青緑は澄んで美しく、独特なものです。染付は境界線として用いるぐらいで多くなく、黒味のある藍で、伊万里などのように明るく冴えてはいません。文様は皿では見込全体に絵を描いたもの、周圍を幾何文様で飾ったもの、或いは全面幾何文様で埋めたものなどがあり、絵には花鳥・人物・山水などを扱っています。これには中国明末、清初の磁器、柿右衛門・伊万里をはじめ、絵画・染織物、或いは、渡来工芸品の文様をそのまま写したと思われるもの、一部採り入れたもの、またそれらが混在しているものなどがあって、変化に富んでいます。幾何文様と見込の裝飾上に占める比例、それに伴う幾何文様の種類・構成の精粗などに、古九谷裝飾展開のあり方と、時間的な推移もうかがわれるのではないかと思います。前述のように、古九谷については不明な点が多く、作品についても複雑な問題が多いのですが、近年古九谷に関しては、調査研究が一段と進められ、再検討され、或いは整理に資すると思われる材料も現れています。

古伊万里は、広義に解すれば、そのはじめは元和(1615-23)の磁器創始からといえますが、一応、朝鮮・中国の影響を受けています。寛永中期を創業期、続いてこれを脱し和様化に移行する期間、即ち寛文一延宝(1661-80)までを初期、元禄を中心に延宝末(1680)から享保一元文(1740)までを盛期、その後を後期に分けています。

伊万里の商人達は色絵の出来る前から商取引をしていましたが、これらも、殆どが彼らの手によって伊万里港から各地に送られ、且つ窯元達は伊万里商人の経済的支配下にあったことなどから、いつの間にか伊万里の名で呼ばれるようになりました。古伊万里も最盛期を経て、需要の増加により、品種・形態は複雑多岐となり、生産額も多くなりませんが、意匠は従来の踏襲に止まり、顔料も劣り、かつてのような芸術的魅力はなくなってしまいました。古伊万里も柿右衛門と同じく早くから西歐に輸出され、かの地の窯業にも大きな影響を与えています。イスタンブールのトプカプ・サライ博物館には、早く輸出された古伊万里が2~300点も並んでいるのは有名ですし、世界のどこへ行っても多くの古伊万里があり、日本ではあまり見かけない形や文様のものから、中国製の古伊万里写しの大きな壺や鉢も、欧米にはかなりあるとのこと、古伊万里の旺盛だった窯業の様が伺われます。

(完)



「たんぼの会」開催

山崎 久美子

去る5月19日、今年度「たんぼの会」が霊南坂教会に於いて開催された。出席者11名。今回の当番はこの会でいちばん若い(?)学年の塚田、後藤田、木下(旧姓松井)山崎(佐藤)の4名。この二月に亡くなられた八木(佐久間)さんとお嬢様のご婚礼を控えてお忙しい河合(萬井)さんのお姿が見えなかったのは淋しいが、一同元気良く3階の集会所に集まった。

窓を開ければ緑風が吹き抜け、エアコンでは味わうことの出来ない爽やかな空気に包まれる中、塚田さんの開会の挨拶から始まった。塚田さんは前日に拝聴した聖路加病院の日野原先生のお話を引用し、健やかな人生を送るための三箇条を紹介。それによると、いつまでも愛し愛される人間関係を保つこと、創造的な仕事をする事、忍耐をすることが大事とか。よってこの会もただ集まるだけではなく、何か目的意識を持つことが必要ではないかと提案。是認、塚田さんの話に納得し、早速この会のメンバーで環境問題、とりわけごみ処理問題に取り組んでいるお二人の意見をお弁当をいただきながら伺うことにした。

まず一人目は木下さん、16年前に目黒区の自宅のすぐ前にごみ焼却炉が出来たのをきっかけにこの運動を始めたというベテラン。も

う一人は、豊島区在住の佐藤(長瀬)さん。お二人の話によると、ダイオキシン等の有害物質が女性の体内に入るとそれは胎盤を通して子どもに流れ、その結果、母親のからだは浄化されるという。悪いものをみんな子どもに移して母親の身体がきれいになるという事実を知ったとき、佐藤さんはがくぜんとした、この問題に取り組まなくては自分の人生を終えることが出来ないと思い運動に参加することを決意された。そして今や全国のリーダーとして明晰な頭脳をフル回転させ、ご多忙な毎日を送っていらっしゃるとのことだった。

この時、永橋(黒部)さんから意見が出された。焼却すれば良いという考えを是正し、循環型社会を作るべきだということは良くわかるが、もっと身近に出来ることから始めたらどうかという提案だった。昔からハリウッドスターのローレン・バコールみたいな雰囲気漂わせていた永橋さんは、数十年たった今でもちっとも変わらず、柔らかい口調でおっしゃる。佐藤さんは大きく頷き、複眼的思考を持つことが大切と強調。まずはペットボトルを買わない、コンビニのお弁当も買わない。そこまで言ったとき、「でも、ペットボトルのコーヒーは美味しいんだもん」と叫んだのは塚田さん。考えるこ

とは易し、されど実行は難し。でも自らに正直に発言するのは長生きの秘訣かもしれない。一同、大爆笑。ここで、話題は齋藤(厚木)さんのフラダンスに飛んだ。すらっとした齋藤さんがフラを踊る姿を想像してみんなうっとり。しかし齋藤さんは大病をしたあと心に溜めて我慢することを止め、我が儘に生きることを決意してフラを始められたとか。やっぱり悩みのない人生は無いのだなあ、と話合っていると大岩(志水)さんだけは例外だと言う。ご主人様がとても優しく、一部には過保護だという意見も出たが、羨ましい限りである。

ここでター子(原)さんから現在、病氣療養中の方々のお話がでて、早く良くなれることを一同、心から祈る。ター子さんと同じお名前前の西郷(国行)さんからは寄付集めのご苦労話ができる。でも、普段は利潤追求にしのぎを削っている経団連のお偉い方々も、西郷さんにお会いになればしばしの心の安らぎを感じられたにちがいない。

このあと終戦時の話になり、満州から引き揚げて来られた林(大久保)さんの体験談を聞く。日本に帰る途中にお父様を亡くされ、お母様とお兄様と3人で帰って来られたとか。大変な出来事をしかし、林さんは淡々と語られる。また、現在は息子さんがタイ国に居を定められ、かつて国連にお勤めのお嬢様は西サモアにいらしたことがあったとか。それら貴重な経験を書き表したらどうかと薦めたのは佐藤さん。ほんの数十年前のことでも今の若い人は知らないことが多い。みんな同意見であった。

最後は後藤田さん手配のお菓子をいただきながら欠席者にカードをまわし書きし、スカウトソングを歌う。全員昭和20年代に入団したメンバーだが、その個性は何十年という歳月を経てもまったく変わらない。一年でもこの会が存続することを願って散会した。

平成12年度アジア太平洋提携プロジェクト (バングラデシュ) 派遣報告

ローバースカウト隊 毛受 寛貴 (めんじゅ・ひろたか)

「平成12年度アジア太平洋提携プロジェクト(バングラデシュ)派遣」(以下バングラデシュ派遣と呼ぶ)が、去る2月23日から3月9日に無事終了した。

バングラデシュ派遣は、1994年のモロッコ・マラケッシュで行われたマラケッシュ国際シンポジウムの折りに、バングラデシュ連盟から提携プロジェクトの共同実施提案が行われたことから始まった。

1995年、97年には事前調査派遣があり、98年に第1回派遣が行われ、今年が第4回派遣である。この提携プロジェクトは5ヵ年計画であり、あと1回の派遣が予定されている。

バングラデシュ派遣の目的は、ORT(経口補水療法)の啓蒙活動であるが、実際には啓蒙活動以外にも、環境や保健衛生に関連する活動(「子供の食事について」や、「ビタミンA」についての説明等)も行われている。

私は今回の派遣が2度目となる。なぜ2度も参加する気になったのか。1年目は誘われるままに行ってしまったが、今年は去年の反省をいかし、日本派遣団を引っ張っていきたくかった。またバングラデシュの口では言い表せない魅力に取り付かれてしまったというもある。

この派遣は、派遣期間以外にも、事前集会、事後集会があり、また、それ以外にもいろいろなところへ行き、派遣の宣伝をしたり、メーリングリストなどを用いて議論が交わしたりと、年間ずっと何らかの活動があり、行って終わりというようなものではない。とても過酷である分とてもやりがいがある。

今回派遣が行われたのはバリシャル地方バルグナ県というところ

でバングラデシュのかなり南に位置するところであった。そこで2月28日から3月5日までプロジェクトを行った。プロジェクトは日本のスカウト1人とバングラデシュのスカウト7~8人で組を作り、60家庭ほどの家を回りおこなった。今年のバングラデシュのスカウトは、英語があまりしゃべれない、また、なまりも強く、コミュニケーションには困ったが、昨年の経験を生かしバングラの歌などを歌い強引にのりきった。

宿泊地となったのは、近くにすむお金持ちの家で、これがビックリしたことに、水洗便所とシャワー付きだった。(停電や水が止まることはしばしばあったが)ベッドは無く、床にマットを敷いて蚊

帳を吊り、寝袋で寝る。プロジェクト中の食事は現地の人を作ってくれた。朝はカレーとチャパティ(ナンみたいなもの)昼と夜はカレーライスという三食カレーであった。

プロジェクト期間中は、遅寝早起きとなり、体調を壊すものが続出する。日々2人くらい体調を崩し、1人が復活すると1人が、倒れるという状態。しかし、皆でカバーしあい、プロジェクトは無事に終了することができた。

さて、自分は来年も行くのか。行ければもちろん行きたいが、この派遣に3年目というのはあまり必要としない。むしろ多くのスカウトに体験して欲しいのである。派遣員の定員は18名であり、余るようならサポートにまわろうと思っている。

とりあえずは、今年一年宣伝活動を行い仲間を増やし、五年目以降の企画していく予定である。



ボランティアって何か

杉原 正

前回「ノン・フォーマルを考える」についてご紹介しましたが、新しい世紀の幕明けとなった今年には「ボランティア国際年」。国際ボランティアとしてカンボジアで活躍中に殉職された中田厚志さんの父親である中田武志氏が、ご子息の遺志を継ぐ形でボランティア活動に参加し、その中田さんが提唱した「2001年をボランティア国際年に」との提案が、1997年の国連総会で満場一致で採択されました。

日本でも国内ボランティア組織31団体のネットワーク「2001年ボランティア国際推進協議会」が発足して活動が始まっています。

前回の「ノン・フォーマル教育」でご紹介したように国のレベルにおいても教育改革を大きな課題として取り組んでおります。教育改革国民会議が提言した事柄の多くは学校教育の改革であり、学校外教育については殆ど言及されていません。

その中で学校教育における「奉仕活動の義務化」が提言され、大きな議論を呼んでいます。今後の中央教育審議会において審議される予定ですが、これまで様々な問題が提起されており、私としても「義務化」は賛同できる内容ではありません。

スカウト教育では「人格・健康・技能・奉仕」を人間形成の基本とし、青少年自らの関わりを大事にしています。その中で、奉仕についても同様であり、様々なプログラムの中で、役立つことの喜び実感できるようにスカウトが自ら考え実行できるように仕向けるようにしています。

その根底には「日々の善行」(かつては一日一善といった)をスカウト教育の「スローガン」としており、日々の生活の中でいかせるよう、また実践するよう企られています。

ます。

ボーイスカウトやガールスカウト等が構成員となっている(社)中央青少年団体連絡協議会(25団体、1200万人)では、本年度の取り組みとしては青少年のボランティア悉皆運動を提唱しており、その一つとして、子どもの手による「ボランティア憲章」を起草し、提言しました。

その過程において傘下の青少年団体の協力のもと、「ボランティアに関わるアンケート調査」が実施され、小・中・高校生約3100人が参加しました。

その中で「ボランティア」について「よくする」、「ときどきする」を合わせると67%であり、平成12年に実施された「子ども体験活動研究会」(代表:平野信州大学助教授)による同種のアンケート調査では韓国、アメリカ、イギリス、ドイツ、日本のうち、最低が日本の33%で、最高がドイツの66%でありました。

一つのアンケート調査の比較ですが学校外教育といわれるノン・フォーマル教育としての青少年教育団体に属して活動している子どもたちは、一般の子どもに比べて倍以上のボランティア活動への関わりがあったことは大変興味深く、このことを踏まえて私たちはスカウト教育に関わっていかなければならないと考えています。

また一方で「どんなキッカケでボランティアに参加したか」の問いに35%が「親にすすめられて」であり、その背景には親がボランティア活動に参加したり、関心があるもの子どもたちが積極的にボランティア活動に関わっていることが分りました。

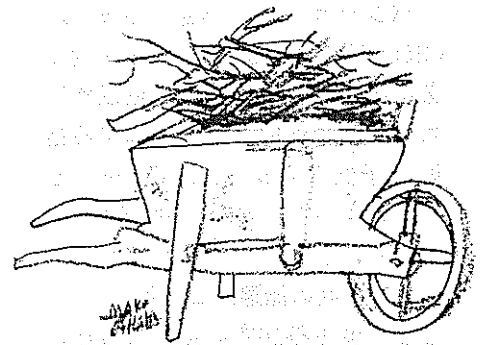
「教育」を考えると、子どもに対して「教える」ことと、「育てる」ことをバランスよく提示し、提供

していくことが全人格的形成には必要なことと考えます。

スカウトクラブの皆様のご家族やご関係の方々の中にも多くの子どもたちが、スカウト活動など青少年教育活動に参加していただき「心の育み」の恩恵を受けられることを切望します。併せて私たちスカウト教育に関わる者として、その責務を全うできるよう今後とも努力したいと思います。

杉原さんは、この5月をもって6年間務められた日本連盟総コミッショナーを退任されます。これは1期2年で3期までとの規定があるためです。

すでに(社)中央青少年団体連絡協議会の副会長に就任され、併せて(社)青少年育成国民会議の副会長としても青少年育成の将来を見据えた環境づくりの活躍が続くことになっています。



帰国と転居のご挨拶

陽春の光輝く季節となりました。皆様におかれましてはますますご清栄のことと存じます。

この度、私共はアメリカでの学びと牧会を終え、帰国いたしました。この4月より鎌倉市にございます教団・大船教会へと遣わされました。

これまでのお祈りとお支えを心より感謝申し上げますと共に、皆様、どうぞこれからもよろしく願ひいたします。

2001年4月
日本キリスト教団 大船教会
〒247-0061 鎌倉市台2-10-10
Tel:0467-46-3229

自宅
〒247-0073 鎌倉市植木425-1-304
オーベル鎌倉植木
渡辺 誉一・玲子

イタリアの

ピエラから

スカウトクラブの皆様、こんにちは。

ここは、後ろがアルプスの末端に続く山々、前が水田が広がる北イタリア、ピエモンテ地方にあるピエラ市からの初通信です。ピエラ市は毛織物の産地で、古くから桐生市と姉妹都市を結んでいます。

この町の商業学校の繊維織物科はその業界でも有名で日本からの留学生の姿も見られます。又、ピエラ米は安く美味しいので、日本人・中国人に好評、私達も一日一回は日本食、ピエラ米を食べています。5kgで約500円くらいですから日本に較べると随分安いと思います。

食べ物のお話のついでで、今、ヨーロッパでは狂牛病が問題になっていますが、私達主婦にとっては毎日の献立に直接響いて、頭を悩ませています。スーパーの肉売り場には「ピエモンテ産の牛肉は安全保証されています」と大きく貼紙されていますけれど、さすがに買う人は減りました。牛肉の代わりに馬肉や駝鳥の肉も並んでいます。ハンバーグ等は豚肉でも代用出来ますけれど、スキヤキはやっぱり牛肉でないと。早く安心して牛肉を食べられる様になって欲しいものです。

先日、私の友人で家のドアに変な絵が書いてあるのに気が付き、何だろうと思っていたら、ミラノやトリノ等の大都会から流れ込んできた泥棒のグループのサインと言う事が分かり、びっくりしたり気味悪かったり。例えば「△」は犬がいると言う意味、「×」はもう一度はいった。「○」は昼間は留守、「○の中が+」は家族が多い等と言うサインなので、家のドア、あるいはインターフォンの所を見て、このようなサインが無いかどうか、

こんにちは

森田 真知子

気を付ける様にと通知が廻ってきました。我が家は大丈夫でしたが、アパートでも一戸建ての家でも、あちこちで見つかったと言う話。幸いして私の知人で、実際に被害に会った人は居ませんでした。本当に物騒な事、油断は出来ません。

さて、カソリックの国イタリアは二月の謝肉祭が終わって次は四月の復活祭の休みを楽しみにしています。学校は復活祭休みが一週間あります。クリスマスの次にイタリア人が大事にしている復活祭は、家族揃って過ごすのですが、子供達が特に楽しみにしているのはチョコレートで出来た大きな卵です。この卵は中が空洞でその中におまけが入っています。男の子用、女の子用とあり、おもちゃやアクセサリー等、色々で、どんなのが入っているか卵を割ってみなければ分からないので、それが又ちょっとスリルがあります。卵の大きさは、普通の卵くらいのから高さ20cm、30cmと大きくなります。値段が高くなれば、当然中に

入っているおまけも良い物が入っていると言う訳です。ちなみに、今日本でも人気のポケモン、こちらでも大人気で、今年のおまけにはポケモンのキャラクターが登場した様です。

ピエラの山の雪も溶け始め、春らしい日が多くなりました。暖くなるのは嬉しいけれど、また花粉症が始まって暫くは憂鬱な私です。日本では花粉症対策にマスクや薬、色々出ている様ですね。イタリアではまだやっとこの二年位マスクでも話題になってきたという風です。マスクは日本独特な物で、イタリアではマスクは一般的ではないのでマスクをかけて町を歩いたら注目的になるのは受け合いです。病院で医師達が使うプラスチックか紙製のマスクしかありませんので、私はマスクなしで頑張っています。花粉症の方もそうでない方も、気候の変わり易いこの季節、どうぞお身体をお大事にお過ごし下さい。

また、お便りします。

(2001年3月27日記)

※森田真知子(旧姓:栗原)

1963年より4年間リーダーとして活躍。1968年よりイタリア在住。



左端が森田真知子さん(1989年に帰国した折り、皆と撮影したもの)

計 報

八木千恵子さんが去る2月14日未明逝去されました。

◎追悼文

「八木千恵子さんのこと」

旧姓、佐久間さんだったので「おサク」と呼んでいた。高ぶらず、いつも公平で忌憚なく話をする事が出来る方だった。富岡のお宅にも遊びに行き、私宅にも来てくださった。もっともっとあれこれと話しておきたかった。

ここに夫君・壮一氏から送付されたご挨拶(一部)を掲載させていただくこととした。

GSリーダーを共にした

塚田 洋子

「付文 八木真幸(俗称・千恵子) 生い立ち」(抜粋)

・昭和36年立教大学文学部教育心理学卒業。その間、ガールスカウト東京第4団、立教レンジャース、放送研究会で活躍。

・昭和38年3月、大学時代の同期生、八木壮一と結婚。八木書店の仕事を行いながら育児に励み、3人の子供達のPTA、自分の小中高大学、GSの友人らと交流を重ね、また早くから心理学者河合隼雄先生の著作等を多く読み、秋山ちえ子先生の教室に通う。

・平成元年ころから腰痛を訴え、漢

方、整体、鍼等を施すが治癒せず。平成10年6月、日本医科大学付属病院整形外科に通い、10月すぎからリハビリを行うも、痛みが取れず。

・平成11年1月、東京慈恵会医科大学附属病院腎臓高血圧内科で総合的に診察、厳しい宣告を受ける。

・平成12年8月、子供、孫達と軽井沢で1週間過ごす。同年11月、再入院。平成13年2月14日未明、家族が見守る中で永眠、行年62歳。

◎自宅療養中に書き留めた歌の中から

「おしなべて

物をおもはぬ 人にさへ

心をつくる秋のはつ風」

西行

「さびしさは

その色としもなかりけり

横立つ山の秋の夕暮」

寂蓮法師

「夢の間なりき、

強き光の夏よ、さらば！」

ボードレールの

「秋の詩」より

意見・寄稿を募集申

広く皆様のご意見や寄稿を募集しています。社会的に、ビジネス的に役立つ情報交換を希望される方からのものも掲載していきますので共有できる情報を下記の幹事宛に送付ください。

編集後記

世の中が殺伐としてきました。銀行員が地下鉄の駅ホームで18歳の若者たちに撲殺されるという事件が起き、これは自首という形で一応の解決がみられました。しかし、世田谷で一家4人が惨殺されるという事件が起きて随分となりますが、解決されていません。

メル友殺人、強盗殺人、その他いろいろな凶悪事件が報じられています。20、30年前には稀に起きたような事件が最近では毎日のように起きているように思われます。

人々の心が荒廃したということなのでしょう。これは一部の人達の犯罪が単に凶悪化しているだけではないと思われま。やはり、日本全体が微妙に変化していると考えられます。

若者達の食生活がコンビニ化で時代を反映しているとはいっても、生物的な意味や栄養学的な意味では不自然でしょう。アメリカではファーストフードやジャンクフードを中心とした食生活をしている子供達が「切れる一精神的な変調で突然感情を爆発させて他人に危害を加えるようなこと」傾向が強いというレポートがおおよそ30年前に栄養学者から出されています。

隣にいる人が何時「切れる」かと不安に思う世の中は、けして良い世の中とは言えないでしょう。環境問題も絡んでいる可能性(環境ホルモン)もあり、これらは現役に限らずスカウトとして、先輩として、親としてなどのいろいろな意味での視点が問われるものと思われま。

E-mail / 電子メール

スカウトクラブの会報は年に3回、あるいは多くて4回となっています。

3~4ヶ月の間に事柄によってですが、できるだけいろいろなことを皆さんに早くお知らせしたいと幹事会では希望しております。

そこで、現在E-mail Addressをお持ちの方は下記まで電子メールでアドレスをお知らせください。会員・未加入会員を問いませんのでお気軽にご連絡ください。(河内宛)

連絡先: E-mail Address
riverys@fancy.ocn.ne.jp

霊南坂スカウトクラブ連絡先

入会申込・問合せ等:

(郵便) 107-0062 東京都港区南青山7-11-5 日下部 宛

(ファックス) 03-3400-0399 (電話) 03-3400-0331

会費・ご寄付等:

(郵便) 105-0001 東京都港区虎ノ門1-19-5 杉原 宛

(電話/ファックス) 03-3501-3998

振込講座番号: 霊南坂スカウトクラブ

(郵便局経由) 00160-1-615237

通信・ご希望・ご意見等:

(郵便) 150-0021 東京都渋谷区恵比寿西1-33-3-303 河内 宛

(ファックス) 03-3464-8276 (電話) 090-4919-2941

(E-mail) riverys@fancy.ocn.ne.jp